

2026 年 1 月 8 日

報道関係各位

GMO インターネットグループ

**「AI エージェント業務活用している、したい」が 6 割以上**  
**GMO インターネットグループ、AI 活用定点調査**  
**～一人当たりの月間削減・捻出時間は 46.9 時間、前回比+3.7 時間に～**

GMO インターネットグループ（グループ代表：熊谷 正寿）は、「AI で未来を創る No.1 企業グループへ」を掲げ、グループ全体で取り組む生成 AI の活用・業務効率化の取り組みを進め、四半期に一度、生成 AI の活用に関する定点調査（※1）を実施しています。

2025 年 12 月に実施した調査の結果、グループ全体の**生成 AI 業務活用率は引き続き増加し 96.2%となりました**。また、**AI を活用しているパートナー（従業員）の複数生成 AI サービス利用率が 82.2%、有料サービス利用率は 75.8%に到達しています**。さらに、**1 人あたりの月間の業務削減時間は約 46.9 時間となり、前回調査より 3.7 時間増加しました**。これは**1,805 人分の労働力を AI 活用により得られている計算となります**。さらに **AI エージェントの業務活用率は 43%で、活用したい意向を持つ人を含めると 6 割超**になりました。

**「AI エージェント業務活用している、したい」が 6 割以上**  
**AI 活用定点調査**



■ 調査サマリ

- ・ 2025 年 12 月時点で全体の**生成 AI 業務活用率は 96.2%**で引き続き増加を維持
- ・ 生成 AI を業務に活用しているパートナーのうち 75.4%が「ほぼ毎日活用」
- ・ 複数 AI サービス利用率は **82.2%（前回調査差+2.2 ポイント）**
- ・ 「GMO AI ブースト支援金」（※2）の効果で、**有料サービス契約率は 75.8%** に到達しており、パートナー一人ひとりが目的に応じて複数の AI ツールを使いこなしている
- ・ パートナー一人あたりの**月間削減・捻出時間は 46.9 時間**となった（前回調査差+3.7 時間）
- ・ **AI エージェントの活用率は 43%で、活用したいという意向を含め 6 割超**に
- ・ 「画像生成」の伸びが顕著で、nanobanana や NotebookLM の活用が拡大している

## ■調査概要

- ・ 調査テーマ : 「生成 AI 活用」実態調査
- ・ 回答者数 : 6,368 人（有効回答 5,561 人）
- ・ 調査対象 : GMO インターネットグループの国内パートナー  
（正社員、契約社員、アルバイト、派遣社員、業務委託）
- ・ 調査期間 : 2025 年 12 月 8 日（月）～12 月 12 日（金） 調査テーマ : 「生成 AI 活用」実態調査

（※1）2024 年の年間調査結果 : <https://group.gmo/news/article/9330/>

2023 年 11 月 20 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/8680/>

2024 年 04 月 09 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/8922/>

2024 年 07 月 05 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/9051/>

2024 年 10 月 09 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/9185/>

2025 年 01 月 07 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/9330/>

2025 年 03 月 28 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/9455/>

2025 年 06 月 27 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/9561/>

2025 年 09 月 30 日 定点調査 <https://group.gmo/news/article/9708/>

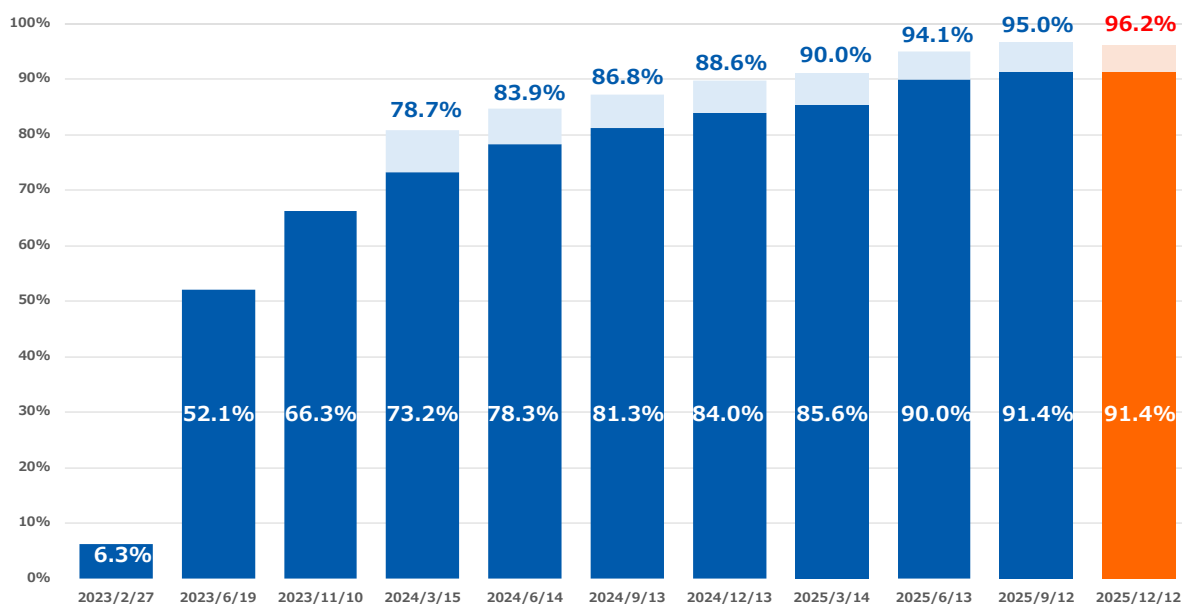
（※2）「GMO AI ブースト支援金」<https://group.gmo/news/article/9513/>

## 【GMO インターネットグループの生成 AI 活用調査結果】

### ① 生成 AI 業務活用率は 9 割超を維持、パートナーが 350 人増加しても活用率変わらず

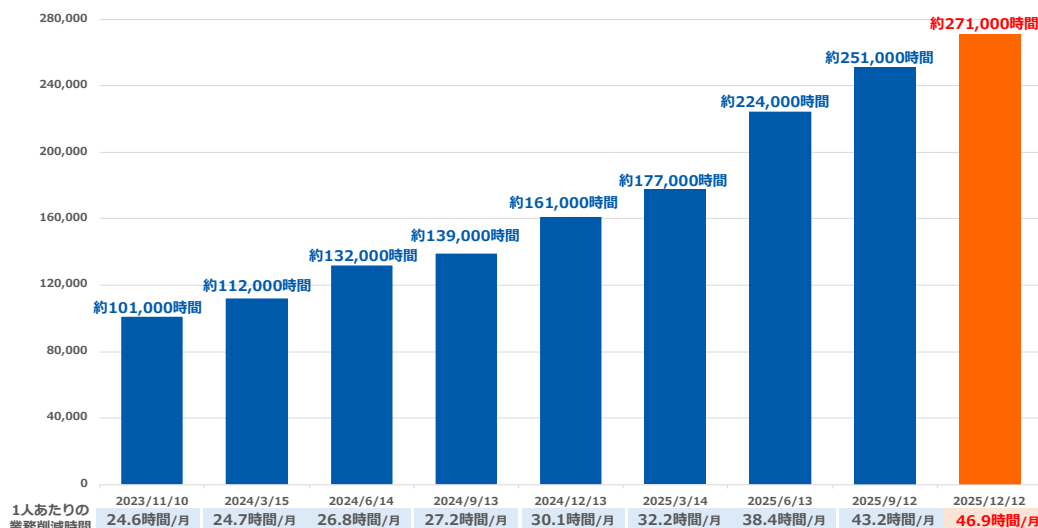
- ・ 国内パートナー（シフト勤務除く）の 96.2%が生成 AI を活用（前回調査差+1.2 ポイント）。
- ・ 今回パートナー数が 350 人増加したにもかかわらず、業務活用率は横ばいとなり、AI 人材の採用が着実にできていることがわかりました。
- ・ 業務に生成 AI を活用しているパートナーのうち 75.4%が「ほぼ毎日」、93.1%が「週 1 回以上」活用していることがわかりました。
- ・ 生成 AI の活用で、ひと月あたり約 25.1 万時間（前回調査差+約 2.7 万時間）の削減、1 人あたり約 46.9 時間（前回調査差+約 3.7 時間）の削減を実現しました。

## 生成AI業務活用率



※シフト勤務除く国内パートナー

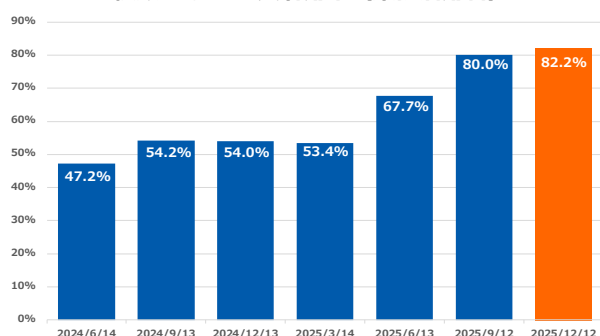
## 業務削減時間の推移（月間）



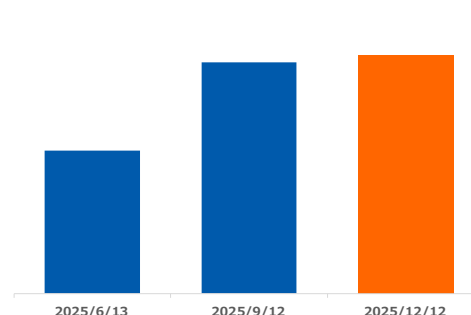
### ② 複数 AI サービス利用率は 82.2%に

- 生成 AI を業務活用する人のうち、複数 AI サービス利用率は **82.2%**（前回調査差 +2.2 ポイント）となりました。
- 有料サービスの契約率は 75.8%**となり増加傾向にあります。
- 複数 AI サービスを使い分けることが継続して浸透しつつあります。
- 今年 6 月より開始した「**GMO AI ブースト支援金**」の活用によるものと考えられます。

複数AIサービス利用率（業務活用者）



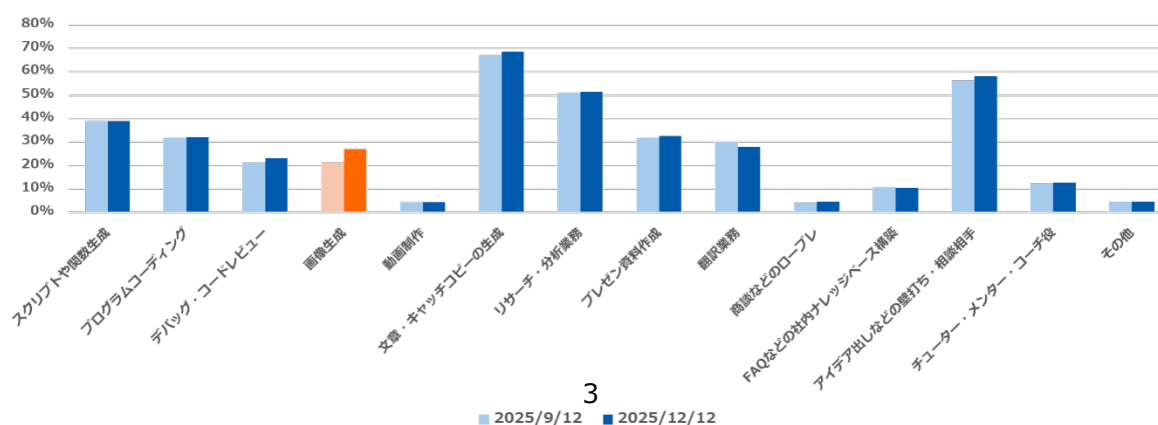
有料サービス契約率（業務活用者）



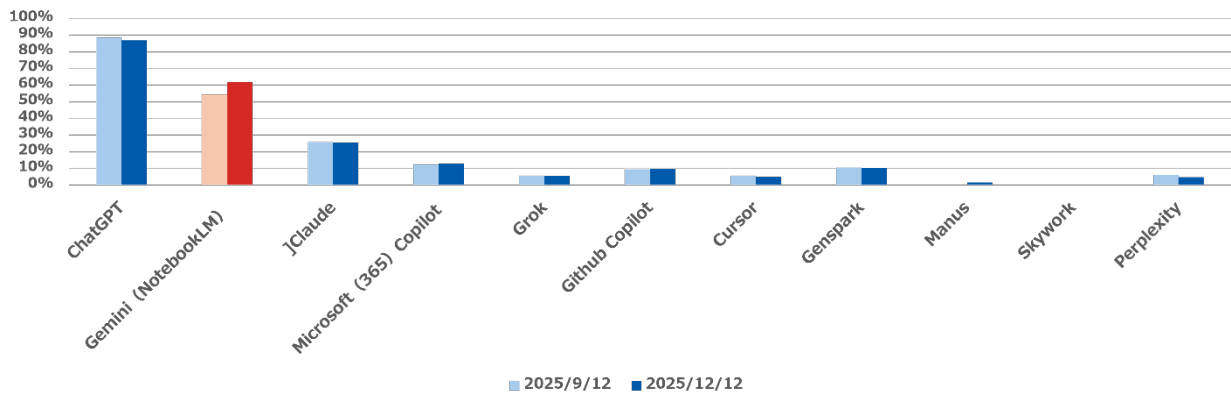
### ③ 「画像生成」の伸びが顕著に。Nanobanana や NotebookLM の活用が拡大

- 「画像生成」の活用が大きく伸びる結果となりました。
- 特に Gemini（NotebookLM）の活用率が大きく伸びていることから、「nanobanana」や「NotebookLM」などの画像生成 AI の社内浸透が進んでいると考えられます。
- 生成 AI によるグラフィックレコーダー画像や、インフォグラフィックも、会議の議事録やアンケート結果の視覚化に活用されています。

生成AI利用用途



## 日常的に利用しているAIサービス（業務活用者）



### ④ AI エージェント活用率は43%、活用意向含め6割超に

- AI エージェントの業務活用率は43%となりました。また、「活用イメージがある」と回答したパートナーを含めると62.9%のパートナーがAI エージェントを活用・活用したいと考えています。
- GMO インターネットグループでは、ハイパーオートメーション化された企業グループを実現するためのAI 人材を育成する「一騎当千プロジェクト」<sup>(※3)</sup>を通じてAI エージェント体験の機会を拡大しており、今後さらなる活用率の向上を見込んでいます。

(※3): 「一騎当千プロジェクト」 <https://group.gmo/news/article/9771/>

### ⑤ AI を利用する中で、人間がやった方が良いと感じることは？

- これまでと同様に、最終調整・意思決定をするのは人間がやった方がよいという回答が多くみられました。
- 文脈や前提知識を整理し、「何をやるか」「どの方向に進むか」「どんな価値を出したいか」など方向性を決める部分に関しては、人間がやるべきだという意見も多くみられました。
- 現場を見て決めるという判断や、日々の細かなジャッジメント、価値判断など、情報がそろっていない状況での意思決定は、人間のリアルな感覚や勘が重要であると感じられています。

### ■ パートナーのコメント

<AI を使っていて「まだ自分（人間）がやったほうが良い」と感じたことがあれば教えてください。>

- 「クオリティの担保や正確性が必要な場合や、最終確認は人間がやるべきだと思います。」
- 「“現場を見て決める”、“その場の空気判断”というリアルな感覚は、まだ人間だけの領域だと思います。」
- 「情報が揃ってない新領域での決定や、価値判断のように答えが一つじゃない領域は、人間の専門家や優秀な人材にまだAI は勝てないと思います。選ぶ人次第、使う人次第だと思います。」



▲AI 生成によるインフォグラフィック例

※AI 生成のため漢字が誤っている場合があります



## ⑥ 生成 AI を使いこなしている人の条件とは？

- ・ 新しいサービスや使い方を積極的に試して常にアップデートと改善を続ける人という意見がありました。日進月歩ならぬ秒進分歩の AI 情報を収集し判断できる人が使いこなせる人の条件であると推察されます。
- ・ 前回に引き続き、「どこを AI に任せ、どこを人がやるか」を適宜判断し、必要に応じて複数の AI や RPA を組み合わせて、仕事全体の効率や価値を最大化できる人という意見もみられました。

## ■ パートナーのコメント

＜あなたにとって、生成 AI を使いこなせているなと思う人はどんな人ですか？＞

- ・ 「“よく考えて使う人”+“よく遊んで試す人”が、生成 AI を本当に使いこなしている人だと思います。」
- ・ 「AI に任せる部分と人間が判断すべき部分をきちんと切り分けたうえで、目的達成のために必要な指示を具体的かつ的確に出せる人。」
- ・ 「生成されたアウトプットを、自分の意図や目的に合わせて自在に調整・抽出し、必要な形に加工できる人です。単に速く作らせるだけでなく、AI の癖を理解し、その結果を責任をもって判断できる能力が重要だと思います。」



▲AI 生成によるインフォグラフィック例

※AI 生成のため漢字が誤っている場合があります

## 【グループ内 AI 推進プロジェクト「AI しあおうぜ！」リーダー 李 奨培（り じゃんべ）コメント】

非エンジニア向けの バイブコーディング の浸透に、足元で最も注力しております。定型業務の自動化を自ら実装できる事を「GMO インターネットグループでは当たり前」の水準まで引き上げる事が目標です。この『非エンジニア向けのバイブコーディング』も、半年後には、社会の標準として当たり前に浸透しているのかもしれませんが、一歩先を行く AI 活用の推進・啓蒙は教育、底上げこそが大事だと思っています。



## 【GMO インターネットグループについて】

GMO インターネットグループは、ドメインからセキュリティ、決済までビジネスの基盤となるサービスをご提供するインターネットインフラ事業を主軸に、インターネット広告・メディア事業、インターネット金融事業、暗号資産事業を展開する総合インターネットグループです。

また、「AI で未来を創る No. 1 企業グループへ」を掲げ、グループ全パートナーを挙げて生成 AI を活用することで、① 時間とコストの節約、② 既存サービスの質向上、③ AI 産業への新サービス提供を進めています。<sup>(※4)</sup> なお、生成 AI を活用し、2024 年は年間で推定約 150 万時間の業務削減を実現しています。

お客様に喜ばれるサービスを迅速かつ低価格で提供するために、サービスは機器の選定から設置、構築、開発、運用までを内製化することを基本方針としています。そのため、グループ 110 社以上に在籍する約 8,000 名のパートナーのうち、IT のモノづくりを担う開発者（エンジニア・クリエイター）が 50% を超えています。（2025 年 6 月末時点）

（※4）参考 URL 「AI で未来を創る No.1 企業グループ」実現への取り組み <https://group.gmo/ai-history/>

GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例については別紙に記載しております。

以上

### 【報道関係お問い合わせ先】

#### ●GMO インターネットグループ株式会社

グループ広報部 PR チーム 倉田

TEL : 03-5456-2695

問い合わせフォーム : <https://group.gmo/contact/press-inquiries/>

### 【GMO インターネットグループ株式会社】（URL : <https://group.gmo/>）

会 社 名	GMO インターネットグループ株式会社 （東証プライム市場 証券コード：9449）
所 在 地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代 表 者	代表取締役グループ代表 熊谷 正寿
事 業 内 容	持株会社（グループ経営機能）  ■インターネットインフラ事業 ■インターネットセキュリティ事業 ■インターネット広告・メディア事業 ■インターネット金融事業 ■暗号資産事業
資 本 金	50 億円

Copyright (C) 2026 GMO Internet Group, Inc. All Rights Reserved.

### 【別紙：GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例】

#### ■①時間とコストの節約

- 2023 年 4 月より賞金総額 1,000 万円の社内公募コンテスト「AI（愛）しあおうぜ！ ChatGPT 業務活用コンテスト」を実施。AI に関する取り組みや新サービスへつながる作品が集まり、多くがサービス提供・実装しました。
- AI に関する最新動向や最新ツールの理解を深める、専門家による「GMO AI セミナー」を定期開催しています。
- AI に関するグループ内のポータルサイト「GMO Genius」を立ち上げ、プロンプトや GPTs の共有、その他情報共有等を行い、グループ内の「AI ナレッジ」の共有を図っています。

4. 非エンジニアを対象としたリスクリテラシー施策として、社内の有識者が講師となり、3 か月間の短期 AI 人材育成プログラム「虎の穴」を実施しています。
5. 全パートナー受験必須の AI テスト「GMO AI パスポート」を実施しています。また、中途採用における選考で AI に関する課題を実施しています。
6. Slack 上で使える「ChatGPT」等のアプリを提供し、情報が学習されないクローズドな環境で、有料ツールを利用できる環境を提供しています。
7. 2024 年 12 月に、「AI 熊谷正寿」実現へのステップとして社内向け独自 AI ツールを提供開始しました。本ツールは「GMO イズム」を学習した“バーチャル知的ナビゲーター”です。  
(<https://group.gmo/news/article/9305/>)

## ■②既存サービスの質向上

AI を活用し既存サービスへの機能追加による質の向上を測っています。生成 AI による文章や画像の生成等により、ドメイン、ホスティング、EC、広告、メディア、セキュリティ等幅広い領域でお客様にこれまで以上に利便性の高いサービスをご提供しています。詳しくはこちら (<https://group.gmo/ai-history/>)

## ■③AI 産業への新サービス提供

AI 産業を盛り上げるべく AI スタートアップの支援を進めています。

1. 2023 年 5 月に、ハンズオン型 CVC「GMO Web3 株式会社」を、「GMO AI&Web3 株式会社」へと社名変更し AI スタートアップ支援を拡大しています。すでに、有望な AI スタートアップへの支援を実施しています。
2. NVIDIA 社の GPU「NVIDIA H100 Tensor コア GPU」「NVIDIA L4 Tensor コア GPU」を搭載した AI 開発者向けの GPU ホスティングサービスを開始しました。(<https://group.gmo/news/article/8677/>)  
([https://ir.gmo.jp/pdf/irlibrary/gmo\\_disclose\\_info20240213\\_06.pdf](https://ir.gmo.jp/pdf/irlibrary/gmo_disclose_info20240213_06.pdf))
3. AI 専門家とともに「GMO 教えて AI 株式会社」を設立し、生成 AI プロンプトポータルサイト「教えて AI」を開始しました。(<https://oshiete.ai/>)
4. 2024 年 6 月に、GMO AI&ロボティクス商事株式会社（通称 GMO AIR）を設立し、AI とロボット・ドローンの導入・活用支援を軸とした新たな事業を開始しました。(<https://group.gmo/news/article/9010/>)
5. 2024 年 11 月に、「NVIDIA H200 Tensor コア GPU」と「NVIDIA Spectrum-X」イーサネット ネットワーキング プラットフォームを採用した「GMO GPU クラウド」の提供を開始しました。  
(<https://group.gmo/news/article/9271/>)